

41. 名張からの情報発信

私たちにさまざまな情報を届けてくれるメディアは、どのように発展してきたのでしょうか。不特定多数の人に向けて情報を発信するメディアのことを「マスメディア」と呼びます。マスメディアの進歩は、15世紀半ばに、活版印刷の技術が発明され、新聞が発行されることから始まり、印刷技術の進歩と交通機関の整備によって、大量の新聞が世の中に出回るようになり発展しました。20世紀に入るとラジオが登場し、情報の伝達速度と伝達範囲に急速な進化が見られました。さらに、20世紀半ばには、テレビが普及し、リアルタイムで情報を入手できるようになりました。そして現代、インターネットの普及により、私たちは世界中の多くの情報を知ることができるようになりました。



鉛に彫った文字を一字ずつ拾い、組み合わせ、新聞を作る昔の活版印刷の様子

1. マスメディアでの発信

私たちは、マスメディアを通じて、たくさんの情報を取捨選択しながら生活に取り入れ、安心して安全な生活を送っています。名張市では、どのような方法で情報が発信されてきたのか、流れを見てみましょう。

(1) 新聞

最初に地方新聞として、1926（大正15）年8月21日、第1号「伊和新聞」が発行されました。当時の印刷は活字を使用しており、活版印刷による新聞が最新情報として配られるようになりました。

「伊和新聞」は戦時中、言論統制により一旦発行が中断されましたが、その後、1947（昭和22）年「株式会社伊和新聞社」を設立して新聞を復刻し、上八町で現在に至るまで、新聞と印刷を中心とした事業を拡大してきました。主に、名張市、伊賀市、津市、奈良県の記事を、常に内容と写真を吟味しながら発信してきました。現在は、タブロイド判の表裏1枚で構成された新聞を週1回発行しています。その他にも、市内の多くの新聞に折り込み広告として「伊和ジャーナル」の発行も行っています。



大正15年第1号の伊和新聞

(2) 情報誌

株式会社ユーは、南町に本社がある無料の情報誌『伊賀タウン情報YOU』を発行しています。創刊は1986（昭和61）年で、創刊号は桔梗が丘を中心にモノクロ紙面2ページで3000部の発行でした。発行は原則として毎月第2・4土曜日です。発刊から30年近く名張や伊賀の話題や情報を発信し続け、約7万部の情報誌を伊賀・名張を中心に配布しています。

紙面製作は毎月2回の編集会議で今一番ホットな情報、話題、活躍する人、まちの問題点は何かなどを話し合い、次号の企画や出稿予定などを調整し、編集部所属のライターや記者が取材・撮影、原稿作成をします。完成した原稿が集まると、ページごとに掲載原稿を分け、専用のソフトで写真の大きさや見出しの位置を決めて、紙面をレイアウトします。レイアウト後は誤字や脱字がないか校正を重ね、印刷会社にインターネット経由でデータを送ります。



原稿検討風景

広告掲載に関しては、読者から反響を得るためにどうしたらよいか考えながら、さまざまな特集を企画しています。

(3) ケーブルテレビ

みのおなかむら 箕曲中村に本社がある株式会社アドバンスコープは、1992（平成4）年11月に「ケーブルテレビ放送」を開始しました。放送チャンネルのひとつであるコミュニティチャンネルでは、日々の身近な出来事を伝えるニュース番組、地域にまつわる歴史を取り上げた番組、地域のイベントの中継など、地域に根付いた番組を放送しています。



番組収録風景

コミュニティチャンネル内で放送する番組は、まず取り上げたい事柄について情報を集め、その情報をもとにカメラを持って現地に取材に行きます。そして、映像の編集と原稿の作成をし、スタジオでアナウンスを入れて収録するまで、全て自社スタッフで制作しています。

(4) インターネット配信

株式会社ユーは、2000（平成12）年からインターネットで地域の最新情報のニュース配信をスタートしました。なでしこリーグに所属する女子サッカーチーム「伊賀FCくノ一」の試合結果なども動画投稿サイト「YouTube」を通じて動画で紹介しています。

読者からの反応も「おもしろかった」という嬉しい意見から「どうして記事にするのか」など厳しい意見までさまざまですが、それだけ多くの人に読まれているということがやりがいにつながっています。

(5) FMラジオ

株式会社アドバンスコープは、2006（平成18）年4月にラジオのコミュニティ放送局「FMなばり」を開局しました。「FMなばり」の愛称「なばステ」（現ads.FM）は、周波数83.5MHzで、地域の話題、生活、行政、防災など地域に密着した情報発信を始めました。

見えるラジオ局として、ガラス張りのスタジオで放送し、地域の人が見て、聞いて楽しめる

番組づくりをしています。また、地域でイベントがあれば中継車を出して、公開生放送も行っています。

ラジオは、テレビとは違い、音声のみで情報を伝えます。ナビゲーターや出演者の話から映像を想像する楽しみがあります。リクエストをすればメッセージが読まれ、曲が流されるので番組に参加している一体感を感じることができます。



スタジオ放送風景

また、ads.FMは、名張市と協定を結び、災害時の緊急放送を市民に伝える防災ラジオとしての重要な役割も担っています。

<身につけよう！ネットモラル>

インターネットの普及によって、だれもが情報を発信することが容易になり、近年、短い文章を投稿したり、友人同士がメッセージや写真などを共有してコミュニケーションを図ったりする、いわゆるソーシャルネットワーキングサービス(SNS)が普及してきました。一方、安易な書込みがトラブルに発展し、知り合い同士の空間であるという安心感を利用して詐欺やウイルス被害も急増しています。情報発信の歴史から、相手を尊重し伝えることの大切さと重要性を考え、その方法についても、常に振り返りながら人とのつながりを広げていきましょう。

2. 名張の魅力を発信

名張市では、多くの人に名張の良さを知ってもらおうとさまざまな取り組みや工夫をしています。名張の魅力を伝え、より多くの人をお迎えできるようにしています。

(1) 「広報紙」や「ホームページ・SNS」

市の行政は、名張のまちを良くしていくためのさまざまな計画や事業をはじめ、ごみの収集日や定期健診の日程など、医療や福祉、税金など生活に関わる行政情報を全ての市民に必ず伝えなければなりません。

それを「広報紙」や「ホームページ」「SNS」などで発信しています。広報紙は、月に1回各家庭に配布し、ホームページは毎日更新し、発信しています。

市民が知りたいと思う情報を分かりやすく、適切なタイミングで効果的に発信し、市政情報を積極的に提供することで、市政への理解や関心を深めてもらうことができます。



広報なばり

(2) チラシやポスター

駅や観光案内所などで、観光地のポスターを見たことがありますか。観光ポスターは地域の魅力を多くの人に伝えるとともに、旅に出かけてみたくなるきっかけづくりの役割があります。どんな人に立ち止まって見てほしいか、限られたスペースにどの情報を掲載するかを考え、少し離れたところからでも一目見てその魅力が伝わるように、観光ポスターは作られています。

名張市観光協会では、名張の観光マップや観光パンフレットも作っています。ポスターと違って、より多くの具体的で役立つ情報が掲載されています。ホームページも更新され、最新情報を手に入れることができるよう工夫されています。



観光パンフレット

(3) 観光ボランティアガイド

観光ボランティアガイド「おきつも」は、名張市に訪れた人に、自らその地域が持つ魅力について、それぞれ得意の分野で紹介する活動を行っています。



美旗古墳群コース



なばり町散策コース

「なばり町散策コース」や「美旗古墳群コース」といった見学モデルコースも設定されています。名張で生活するガイドの「おもてなしの心」にあふれた案内は好評です。ガイドの人たちとのふれあいが、訪れた人々と名張の自然や歴史、文化、人との出会いをさらに思い出深いものにしています。



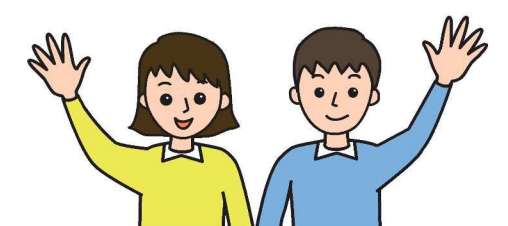
「あれっこわい犬 名張のひやわん」
名張まちなかのPRキャラクターです。

「チャン錦ちゃん」

みえの国観光大使であり、名張市観光大使でもあるチャンカワイさんの代理として、三重県や名張市のPRをかってでたキャラクターです。



発信された情報をもとに、
名張の魅力を調べてみよう。



美旗古墳群【→P34】
名張藤堂家【→P44,46,82】